

コロンビア月例報告（４月分）

外交・内政状況

2017年5月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 1日 モコア市における大規模洪水
- 4日 FARCによる構成員リストの提出
- 5日 和平特別司法制度下の判事選出委員会の設置
- 6日 ELNとの和平交渉第1ラウンドの終了
- 26日 野党基本法の成立
- 27日 「和平のコロンビア基金」設置
- 28～29日 FARCによる少年兵の部分開放

【外交】

- 6日 オルギン外相のウルグアイ訪問
- 6日 コロンビア外務省による北朝鮮非難声明
- 7日 オルギン外相及びラコトゥール商工観光相の太平洋同盟・メルコスール閣僚会合参加
- 14日 ウリベ前大統領及びパストラーナ元大統領のトランプ米国大統領との会談
- 18日 ベネズエラに関する懸念表明
- 19日 オルギン外相の国連本部訪問
- 20日 マドゥーロ・ベネズエラ大統領によるコロンビア非難
- 24日 サントス大統領及びオルギン外相のパラグアイ訪問

II 本文

【内政】

1 モコア市における大規模洪水

1日未明、コロンビア南部プトゥマヨ県都モコア市において、大規模洪水及び土石流が発生した。6日時点で、死者301名、負傷者332名、被災者約3,240名となった。各国より弔意表明がなされ、寄付金が寄せられた。

日本の安倍総理からも弔意が表明され、8日、日本からは、緊急援助として発電機30台が供与された。

2 FARCによる構成員リストの提出

4日、FARCは、集住地域に所在する構成員のリストを政府に対して正式に提出した。合計6,804名であった。また、FARCは、都市部に潜伏するFARC民兵のリストの暫定版を提出した。合計1,541名であった。

(当館注：このリストに記載されているFARC構成員に対して、今後、和平特別司法制度において、同司法制度による(通常より軽い)刑が課されることとなり、一部の者には恩赦も適用される。)

3 和平特別司法制度下の判事選出委員会の設置

5日、政府は和平特別司法制度における合計113名の判事を選出するための委員会を設置した。同委員会は、ガルシア＝サヤン元米州人権裁判所所長(ペルー人)、ロブレス元欧州委員会人権委員(スペイン人)、メンデス元移行期司法国際センター所長(アルゼンチン人)、バカ・ナシオナル大学教授(コロンビア人)及びアクーニャ最高裁判事(コロンビア人)の5名で構成され、6か月以内に選考を行う。

4 ELNとの和平交渉第1ラウンドの終了

6日、エクアドルにおいてコロンビア政府とELNの和平交渉第1ラウンドが終了した。具体的な進展はなかった。

5 野党基本法の成立

26日、野党基本法(Estatuto de la Oposicion)が国会を通過した。1991年の憲法改正以来(当館注：よりリベラルな憲法となったにもかかわらず)、過去に11回同様の法案が提出されては、不成立となっていた。今次法案は、FARCとの和平合意の内容にその制定が含まれていたことから、改めて提出された経緯があった。

同基本法は、主に以下の基本的な権利を、野党(国会、県議会、市町村議会における)に対して保障するものである。

- (1) 行政監察庁における野党の権利担当部門の設置
- (2) (大統領、県知事、市長選挙の)次点候補に対する議会の議席付与
- (3) 予算関連法案審議時の参考人招致
- (4) 追加的財政措置
- (5) 反論権(及び反論への政府の対応義務)

6 「和平のコロンビア基金」設置

27日、サントス大統領は、「和平のコロンビア基金」を設置した。この新基金は、ポスト・コンフリクトのための資金として、一般国家予算、採掘権料、民間セクター及び国際社会からの資金を受け取り、それを管理するためのとされる。この基金は、国連、世界銀行、EU及びIDBの基金を統合し、紛争被害地域での各種プロジェクトに利用される。

7 FARCによる少年兵の部分開放

28～29日、FARCにより合計16名の少年兵が国際赤十字委員会に引き渡され、これまでに解放された少年兵の合計が76名となった。

【外交】

1 オルギン外相のウルグアイ訪問

6日、オルギン外相は、ウルグアイを公式訪問し、ニン・ノボア同国外相とともに、第4回ハイレベル政策協議を実施した。

2 北朝鮮によるミサイル発射に対する非難声明

6日、コロンビア外務省は、北朝鮮によるミサイル発射を非難する声明を発出した。

3 オルギン外相及びラコトゥール商工観光相の太平洋同盟・メルコスール閣僚会合参加（於：アルゼンチン）

7日、オルギン外相及びラコトゥール商工観光相は、アルゼンチンで開催された太平洋同盟・メルコスール閣僚会合に参加した。

4 ウリベ前大統領及びパストラナ元大統領のトランプ米国大統領との会談（於：米国）

14日、ウリベ前大統領及びパストラナ元大統領は米国を訪問し、トランプ大統領と非公式に会談した。両元大統領は、5月に予定されているサントス大統領の訪米に先立ち、ベネズエラ情勢及びFARCとの和平プロセスに関する懸念を表明した。

5 ベネズエラに関する懸念表明

18日、サントス大統領は国連滞在中のオルギン外相に対して、国連事務総長に対し、ベネズエラの軍事化に対する懸念を伝達するよう要請した。

6 オルギン外相の国連本部訪問

19日、オルギン外相は、コロンビアの和平プロセスに関する国連政治ミッションの進捗状況を確認するとともに、国連安全保障理事会による和平プロセスの視察に向けた準備のため、ニューヨークの国連本部を訪問した。オルギン外相は、グテーレス国連事務総長

と会談したほか、安保理常任理事国の各常駐代表と会談した。また、オルギン外相とのワーキング・ランチが開催され、安保理の非常任理事国の各国代表も参加した。

7 マドゥーロ・ベネズエラ大統領によるコロンビア非難

20日、マドゥーロ・ベネズエラ大統領がコロンビアを非難する発言を行った。同大統領は、コロンビアは失敗国家であり、空腹、貧困、暴力、失業等により抑圧されたコロンビア人により、ベネズエラは侵略を受けている旨及びコロンビアにおけるFARCとの和平交渉がいかにも欺瞞に満ちたものだったか知らしめる予定である旨述べた。

8 サントス大統領及びオルギン外相のパラグアイ訪問

24日、サントス大統領及びオルギン外相はパラグアイを公式訪問した。ビジェガス国防大臣及びラコトゥール商工観光大臣も同行した。同訪問中、防衛・治安、通商・投資、労働及び水路・港湾に関する4本の協力に関する文書が署名された。また、サントス大統領は、カルテス大統領により叙勲された。